

中能登町 調査総括表(1/13)

調査番号	7	県名	石川県	市町名	中能登町			
1. 被害の状況等								
(1) 被災前の人団(R5.10.1)		被災状況図						
総人口	15,771 人	<p>▼中能登町全域の建物被災状況 (2024.7 時点ポイントデータ)</p>						
年齢階級別人口								
項目	0-14 歳	15-64 歳	65 歳以上					
人口(人)	1,758	7,915	6,091					
比率	11.2%	50.2%	38.6%					
(2) 人的被害の状況(R7.3.18)								
死者	2 人	(うち災害関連死者 2 人)						
行方不明者	0 人							
(3) 都市計画等の状況								
都市計画区域	都計外の区分							
市街化区域	区域区分 無							
用途地域	用途地域指定 無							
(4) 建物等被災の状況(R7.3.4) ※割合は行政区域等の各区域に示す割合								
区域	総軒数 (軒)	全壊区域		半壊区域		一部損壊区域		流出軒数 (軒)
		軒数(軒)	割合(%)	軒数(軒)	割合(%)	軒数(軒)	割合(%)	
行政区域	6,590	56	0.85%	905	13.7%	3,373	51.2%	0
都市計画区域	—	—	—	—	—	—	—	—
用途地域	—	—	—	—	—	—	—	—
(5)津波浸水被害の状況			(6)液状化被害の状況		(7)火災被害の状況			
区域	総面積(ha)		軒数(軒)	総面積(ha)				
	面積(ha)	割合(%)		面積(ha)	割合(%)			
行政区域	0ha	0%	全壊 1 棟 (旧河道上)		0ha	0%		
都市計画区域	—	—	—		—	—		
用途地域	—	—	—		—	—		

中能登町 調査総括表(2/13)

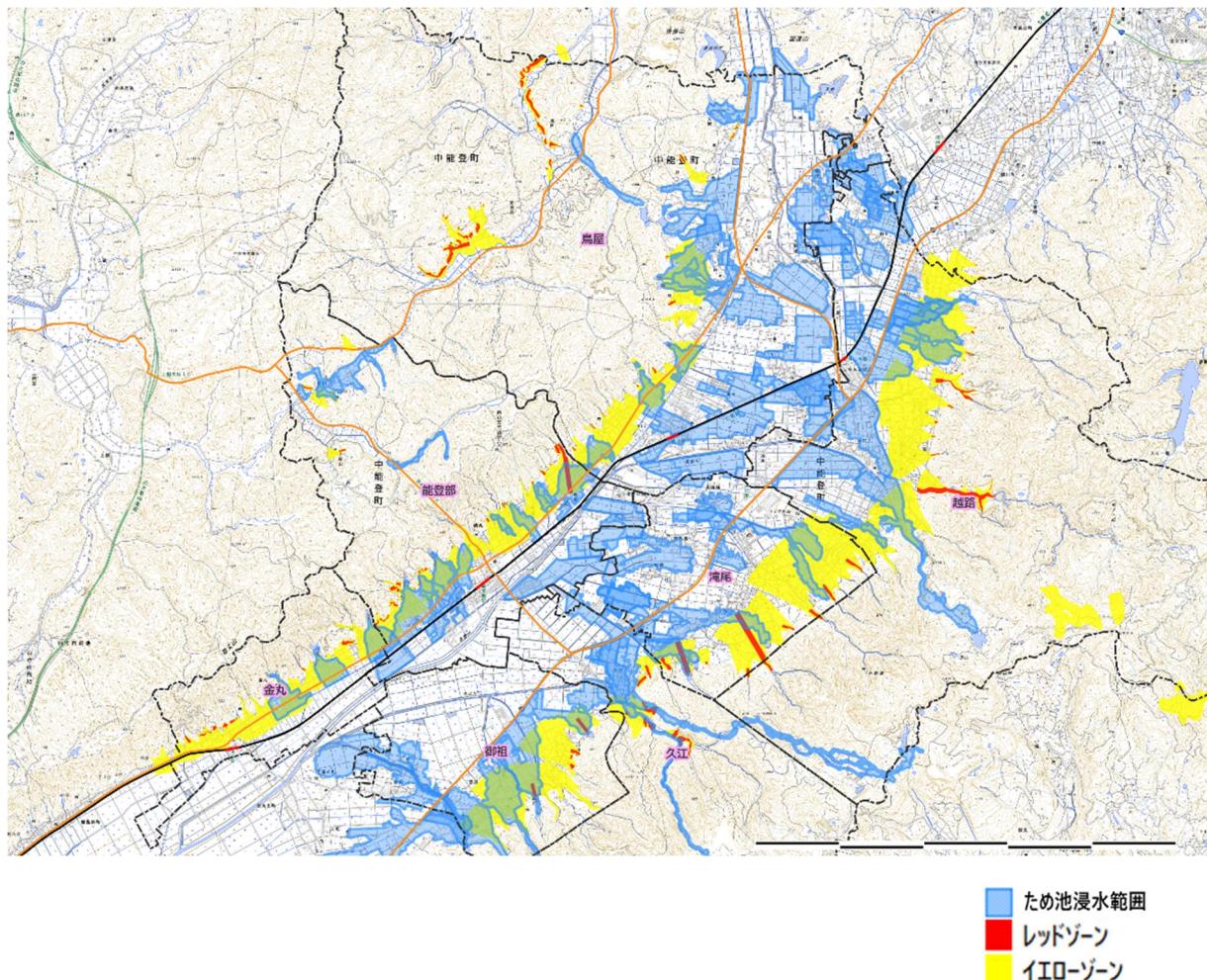
(8)インフラの状況					
区分		被害状況	復旧状況	備考	
道 路	国道	通行止め	被害なし	全通	—
		片側交互通行	被害なし	全通	—
	県道	通行止め	被害なし	全通	(一)函屋酒井線 中能登町金丸など
		片側交互通行	—	—	—
町道	通行止め	744 箇所 (R7. 3 時点)	4 箇所 (4 路 線)	R7.3.15 一部通行止めが継続	—
	片側交互通行	—	—	—	—
電気		被害なし	全通	—	
水 道	上水道	一部断水	全通	復旧日 : R6.1.13 14 時 (鹿西地区、鹿島地区の一部)	
	営農飲雑用水施設	—	—	—	
	小規模水道施設	—	—	—	
	その他水道施設	—	—	—	
下 水 道	公共下水道	一部使用不可	一部使用不可の状 態	R6 年度中に発注済、緊急性の高 い箇所から順次対応中	
	漁業集落排水	—	—	—	
	林業集落排水	—	—	—	
通 信	電話	被害なし	被害なし	—	
	インターネット	被害なし	被害なし	R6.1.2	
	ケーブルテレビ	—	—	—	
(9)仮設住宅の整備状況					
区分		世帯	整備状況	備考	
応急仮設住宅		30 世帯	30 戸完成 進捗率 100%	R7.3.15 時点	
みなし仮設住宅		45 世帯	45 世帯	R7.3.15 時点、自治体名は不明	

中能登町 調査総括表(3/13)

2. 各種ハザード・過去の被災状況

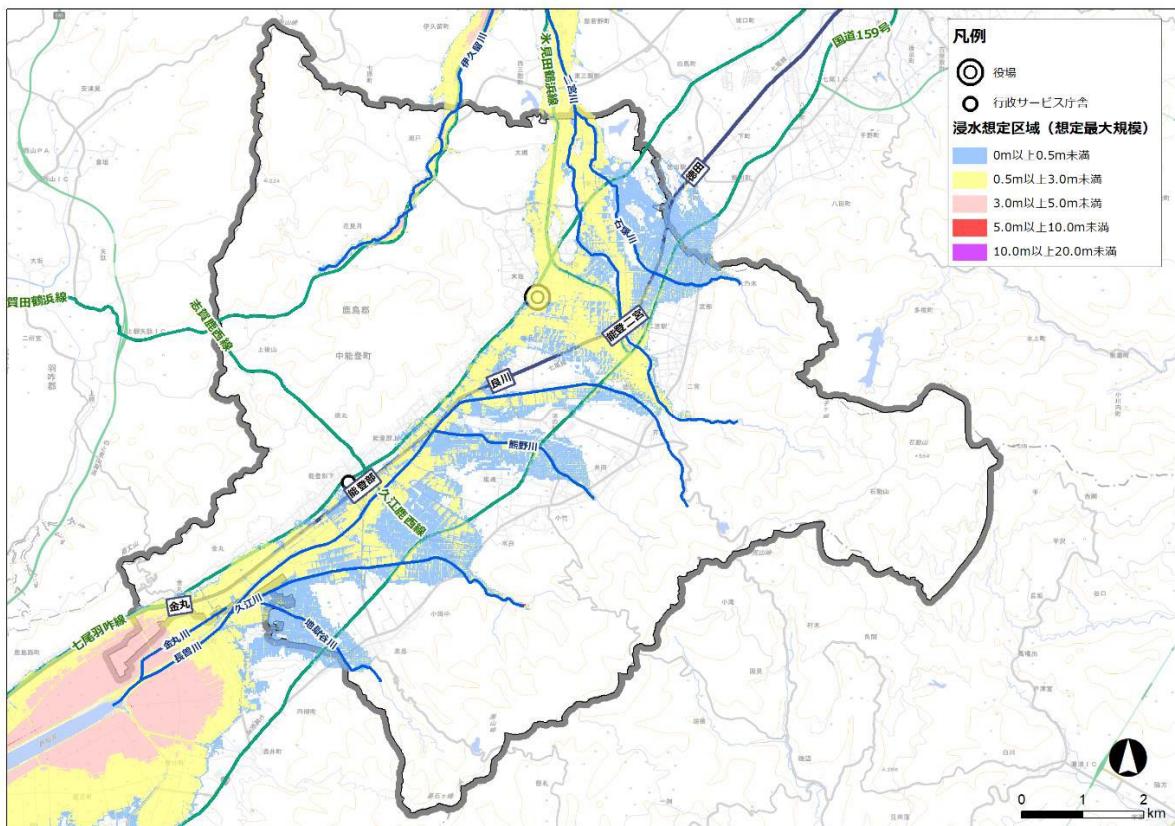
(1)各種ハザード状況

- ・ため池ハザードマップ（shp化）と土砂災害警戒区域（イエローフーン・レッドゾーン）について既存データをもとに整理



中能登町 調査総括表(4/13)

・河川洪水データ



(2)過去の被災状況およびその後の対策

■平成19年能登半島地震

- 平成19(2007)年3月25日9時41分、能登半島沖の深さ11kmでマグニチュード6.9の地震が発生
- 人的被害：死者0名、重傷者3名、軽傷者0名
- 住家被害（棟）：全壊3棟、半壊7棟、一部損壊1,959棟

出典：石川県「平成19年能登半島地震災害記録誌」

中能登町 調査総括表(5/13)

3. 被災前の上位関連計画策定状況

- ・第2次中能登町総合計画（H28策定）
- ・都市計画マスタープラン、立地適正化計画は策定なし

4. 被災前の開発・事業計画状況

- ・中能登町道路・公園包括管理等PFI事業（震災により事業中断中）
- ・CoIU中能登学舎開校事業

5. 復興計画の策定状況

(1) 復興事前準備の状況

無

(2) 復興計画等の策定状況

	名称	策定年月日	委員会	パブリックコメント
復興計画	中能登町復旧・復興プラン	令和7年3月25日	有	有
その他の方針・計画	無			

(3)復興計画の策定方法等での特質(住民参加・大学との連携等・方向性の変更等)

- ・復旧・復興本部会議（14回開催※2月時点）
- ・アドバイザーミーティング（3回開催）
- ・アンケート調査（全世帯対象2回、小中高校生対象、伝統建造物所有者対象）
- ・タウンミーティング（3箇所開催）
- ・地区懇談会（15回開催）
- ・地元組織ヒアリング（7団体）
- ・まちづくりニュース発信（7回※2月時点）

中能登町 調査総括表(6/13)

6. 復興計画の概要(市町全体)

(1) 整備の基本的な考え方			(2) 整備にあたっての基本的な方針	(4) 復興構想図(市町全体対象)
基本理念として『つながり復興』を掲げている。	住宅再建の方針	・心身のケアを図りながら、住家や宅地の復旧支援		
【集約】 つながり復興を進めていく上で基本となるコミュニティ形成のため、それぞれの取組みに必要となる機能を集約し、強固なネットワークをつくることで、これまでのつながりに創造を加えた新しいつながりの活性化を図ります。	コミュニティの復興方針	・地域を担う人材の育成とコミュニティづくりに向けた支援		
【強じん化】 復興を進めていく上で、単に元の状態に戻すのではなく、震災前より良いかたちに戻していくことで、震災に強いだけでなく、豊かな生活が実感できる、まちづくりを進めていきます。	浸水対策の方針	—		
	火災対策の方針	—		
	市街地の整備方針	・地域防災拠点へ各種の機能集積		
	避難体系の方針	・1次避難(指定避難所、集落避難所)、2次避難の考え方の整理、子どもたちを含めた防災意識の高揚		
	交通体系の整備方針	・地域公共交通体系の強化 ・公共交通結節点の機能強化		
	産業・生業・観光・交流の復興方針	・農業生産基盤の復旧、地域産業の再建の支援、新たな産業創出支援につながる創業支援や企業誘致		
	景観・文化・の復興方針	・伝統的様式建造物の街並み保全		
(3) 地区別の方針の概要				
第2次中能登町総合計画に位置付けられている地域拠点ゾーンを「地域防災拠点」に位置付け、各種防災機能を整備し、大規模災害における町民の安全で快適な避難生活の確保を行う。				
地区名	復興の基本的な考え方			
鹿西(拠点の1つ)	産業支援、生活支援、生きがい支援ゾーン(総合計画から継続して位置づけ) 地域防災拠点に位置付け、各種防災機能を整備し、大規模災害における、町民の安全で快適な避難生活の確保 「復旧・復興プラン」のリーディングPJのうち、主に推進するPJは以下のとおり。 ①道路の強じん化と機能強化、②集落避難所の整備、④防災支援拠点の整備、⑤情報発信とデジタルライフラインの構築			
鹿島(拠点の1つ)	産業支援、生活支援、生きがい支援ゾーン(総合計画から継続して位置づけ) 地域防災拠点に位置付け、各種防災機能を整備し、大規模災害における、町民の安全で快適な避難生活の確保 「復旧・復興プラン」のリーディングPJのうち、主に推進するPJは以下のとおり。 ①道路の強じん化と機能強化、②集落避難所の整備、④防災支援拠点の整備、⑤情報発信とデジタルライフラインの構築、⑥歴史的街並みの保全と活用			
鳥屋(拠点の1つ)	産業支援、生活支援、生きがい支援ゾーン(総合計画から継続して位置づけ) 地域防災拠点に位置付け、各種防災機能を整備し、大規模災害における、町民の安全で快適な避難生活の確保 「復旧・復興プラン」のリーディングPJのうち、主に推進するPJは以下のとおり。 ①道路の強じん化と機能強化、②集落避難所の整備、③防災拠点の整備、⑤情報発信とデジタルライフラインの構築			
中能登町復興構想図 (第2次中能登町総合計画「土地利用構想」)。この図は、中能登町の地域構造と主要な交通網を示す地図です。主要なIC(高田IC、七尾IC)と駅(能登二西駅、良川駅、金沢駅)が示されています。図には、複数のゾーンが示されています。これらのゾーンは、地域防災拠点ゾーン(生活支援)、自然環境保全・体験ゾーン、歴史的市街地ゾーン、地域拠点ゾーン(産業支援)、歴史的街並みの整備、農業振興ゾーン、地域拠点ゾーン(生きがい支援)などです。また、山地、住宅供給ゾーン、農地、山間集落、拠点ゾーン、観光施設などの土地利用形態も示されています。また、自動車専用道路、広域幹線道路、幹線道路、補助幹線道路、林道、森林管理道などの交通路線が示されています。				

中能登町 調査総括表(7/13)

7. (1) 地区別復興方針(鳥屋地区の総務庁舎周辺)				
(1)地区の概況				
面積(ha)	範囲指定なし	都市計画	—	役所・支所等 含む
土地利用(被災前)概況	住宅供給ゾーンを主として、一部山地が含まれる(第2次中能登町総合計画)、東西を広域幹線道路が縦断している。			
被災の状況	(明確な範囲の指定がないので、とりまとめは行わない)			
復興方針策定上 留意すべき特徴	—			
まちづくり団体の状況	—			
(2)地区の整備について				
住宅再建の方法	<ul style="list-style-type: none"> 被災判定区分における、半壊以上の世帯に対し、恒久的な住まいの確保により、可能な限り自宅で生活できるよう支援 地震により自宅を失った被災者で、自力再建が困難な世帯を支援 擁壁崩壊や亀裂・陥没等の被害を受けた宅地の再建を支援し、被災住宅の早期復旧と被災者の負担軽減を図る 			
コミュニティの復興方法	<ul style="list-style-type: none"> 「自助」、「共助」の意識醸成に努めるとともに、地域住民等が「自ら考え、自ら実践する地域づくり」に向けた支援を行う。 			
浸水対策の方法	—			
火災対策の方法	—			
土砂災害対策の方法	<p>—</p> <p>(復旧・復興プランでは特に記載していないが、今後事業が具体化する際に防災拠点の整備、集落避難所の整備、位置の選定等にあたっては、ハザードのエリアなどを踏まえて検討していくことを想定している。)</p>			
市街地の整備方法	基本の方針	—		
	現位置整備の方法	—		
	移転区域の方針	—		
	土地利用規制の方法	—		
	公共公益施設の整備方法	<ul style="list-style-type: none"> 災害時、対策本部機能を果たす庁舎や、児童・生徒の健全な育成・教育を行う教育関連施設、町民の日常生活に必要不可欠な各公共施設について、地震災害からの復旧を行い、必要な施設には耐震化など強じん化に取組む。 町民の「だれもが」安心して、「いつでも」「どこでも」学ぶことができる社会教育・生涯スポーツ施設等の地震災害からの復旧、強じん化に取組む。 地域コミュニティの場として長年利用されてきた施設等について、持続可能なコミュニティ拠点として早期復旧と再建を支援 		
	その他特記すべき方針	—		

中能登町 調査総括表(8/13)

整備スケジュール	—
避難方法	<ul style="list-style-type: none"> ・防災支援拠点（防災拠点となる道の駅「織姫の里なかのと」を補完・支援し、集落避難所と連携・支援し、中能登町の地域防災を強化する拠点） ・二次避難に対応した指定避難所のうちの1つ ・大規模災害を想定し、備蓄品目の充実を検討するとともに、分散的な配置計画の立案、配置計画に基づく防災備蓄倉庫の設置、供給体制と手法の検討を進め、災害備蓄の充実を推進
交通体系の整備方法	<ul style="list-style-type: none"> ・地域公共交通の利便性向上
産業・生業、観光・交流の復興方法	—
景観・文化の復興方法	—
(3)実現に向けての課題	
実現に向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・R7以降、中能登町の上位・関連計画の見直し時期にも重なるため、本業務で策定した復旧・復興プランと各種計画との内容の整合が必要
(4)比較した代替案	
上記以外の比較案	上記構想案採用に至った理由
無	—
(5)地区別構想図	
—	

中能登町 調査総括表(9/13)

7. (2) 地区別復興方針(鹿西地区の行政サービス庁舎周辺)					
(1)地区の概況					
面積(ha)	範囲指定なし	都市計画	—	役所・支所等	含む
土地利用(被災前)概況		住宅供給ゾーン、農地ゾーンを主として、一部山地が含まれる(第2次中能登町総合計画)、東西を広域幹線道路が縦断している。JR能登部駅も立地。			
被災の状況		(明確な範囲の指定がないので、とりまとめは行わない)			
復興方針策定上 留意すべき特徴		—			
まちづくり団体の状況		—			
(2)地区の整備について					
住宅再建の方法		<ul style="list-style-type: none"> 被災判定区分における、半壊以上の世帯に対し、恒久的な住まいの確保により、可能な限り自宅で生活できるよう支援 地震により自宅を失った被災者で、自力再建が困難な世帯を支援 擁壁崩壊や亀裂・陥没等の被害を受けた宅地の再建を支援し、被災住宅の早期復旧と被災者の負担軽減を図る 歴史的街並みの保全と活用 			
コミュニティの復興方法		<ul style="list-style-type: none"> 「自助」、「共助」の意識醸成に努めるとともに、地域住民等が「自ら考え、自ら実践する地域づくり」に向けた支援を行う。 			
浸水対策の方法		—			
火災対策の方法		—			
土砂災害対策の方法		<p>—</p> <p>(復旧・復興プランでは特に記載していないが、今後事業が具体化する際に防災拠点の整備、集落避難所の整備、位置の選定等にあたっては、ハザードのエリアなどを踏まえて検討していくことを想定している。)</p>			
市街地の整備方法	基本的方針	—			
	現位置整備の方法	—			
	移転区域の方針	—			
	土地利用規制の方法	—			
	公共公益施設の整備方法	<ul style="list-style-type: none"> 災害時、対策本部機能を果たす庁舎や、児童・生徒の健全な育成・教育を行う教育関連施設、市民の日常生活に必要不可欠な各公共施設について、地震災害からの復旧を行い、必要な施設には耐震化など強じん化に取組む。 市民の「だれもが」安心して、「いつでも」「どこでも」学ぶことができる社会教育・生涯スポーツ施設等の地震災害からの復旧、強じん化に取組む。 地域コミュニティの場として長年利用されてきた施設等について、持続可能なコミュニティ拠点として早期復旧と再建を支援 			

中能登町 調査総括表(10/13)

	その他特記すべき方針	—
	整備スケジュール	—
避難方法		<ul style="list-style-type: none"> 防災支援拠点（防災拠点となる道の駅「織姫の里なかのと」を補完・支援し、集落避難所と連携・支援し、中能登町の地域防災を強化する拠点） 二次避難に対応した指定避難所のうちの1つ 大規模災害を想定し、備蓄品目の充実を検討するとともに、分散的な配置計画の立案、配置計画に基づく防災備蓄倉庫の設置、供給体制と手法の検討を進め、災害備蓄の充実を推進
交通体系の整備方法		<ul style="list-style-type: none"> 地域公共交通の利便性向上
産業・生業、観光・交流の復興方法		<ul style="list-style-type: none"> 地域資源を積極的に活用し、魅力ある観光地づくりを推進し、併せて観光客のニーズに応えるための情報収集を行う 歴史街道や伝統的祭礼をはじめとした文化的・学術的価値のある施設については、適切な形で後世に継承し、観光資源としての活用も考慮し、修復を行う
景観・文化の復興方法		—
(3)実現に向けての課題		
実現に向けての課題		<ul style="list-style-type: none"> R7以降、中能登町の上位・関連計画の見直し時期にも重なるため、本業務で策定した復旧・復興プランと各種計画との内容の整合が必要
(4)比較した代替案		
上記以外の比較案		上記構想案採用に至った理由
無		—
(5)地区別構想図		
—		

中能登町 調査総括表(11/13)

7. (3) 地区別復興方針(鹿島地区の道の駅「織姫の里なかのと」周辺)					
(1)地区の概況					
面積(ha)	範囲指定なし	都市計画	—	役所・支所等	含まない
土地利用(被災前)概況	住宅供給ゾーンを主として、一部山地が含まれる(第2次中能登町総合計画)、東西を広域幹線道路が縦断している。				
被災の状況	(明確な範囲の指定がないので、とりまとめは行わない)				
復興方針策定上 留意すべき特徴	—				
まちづくり団体の状況	—				
(2)地区の整備について					
住宅再建の方法	<ul style="list-style-type: none"> 被災判定区分における、半壊以上の世帯に対し、恒久的な住まいの確保により、可能な限り自宅で生活できるよう支援 地震により自宅を失った被災者で、自力再建が困難な世帯を支援 擁壁崩壊や亀裂・陥没等の被害を受けた宅地の再建を支援し、被災住宅の早期復旧と被災者の負担軽減を図る 				
コミュニティの復興方法	<ul style="list-style-type: none"> 「自助」、「共助」の意識醸成に努めるとともに、地域住民等が「自ら考え、自ら実践する地域づくり」に向けた支援を行う。 				
浸水対策の方法	—				
火災対策の方法	—				
土砂災害対策の方法	<p>(復旧・復興プランでは特に記載していないが、今後事業が具体化する際に防災拠点の整備、集落避難所の整備、位置の選定等にあたっては、ハザードのエリアなどを踏まえて検討していくことを想定している。)</p>				
市街地の整備方法	基本の方針	—			
	現位置整備の方法	—			
	移転区域の方針	—			
	土地利用規制の方法	—			
	公共公益施設の整備方法	<ul style="list-style-type: none"> 災害時、対策本部機能を果たす庁舎や、児童・生徒の健全な育成・教育を行う教育関連施設、町民の日常生活に必要不可欠な各公共施設について、地震災害からの復旧を行い、必要な施設には耐震化など強じん化に取組む。 町民の「だれもが」安心して、「いつでも」「どこでも」学ぶことができる社会教育・生涯スポーツ施設等の地震災害からの復旧、強じん化に取組む。 地域コミュニティの場として長年利用されてきた施設等について、持続可能なコミュニティ拠点として早期復旧と再建を支援 			
	その他特記すべき方針	—			
	整備スケジュール	—			

中能登町 調査総括表(12/13)

避難方法	<ul style="list-style-type: none"> 防災拠点（中能登町の防災としての拠点の他に、奥能登地域への支援ベースともなる拠点として車中泊避難者、ペット同伴避難者など多様な避難者のニーズに対応し、かつ、平時の利活用を考慮した機能性と効率的な空間利用を可能とする新たな施設の整備を検討） 二次避難に対応した指定避難所のうちの1つ 大規模災害を想定し、備蓄品目の充実を検討するとともに、分散的な配置計画の立案、配置計画に基づく防災備蓄倉庫の設置、供給体制と手法の検討を進め、災害備蓄の充実を推進
交通体系の整備方法	・地域公共交通の利便性向上
産業・生業、観光・交流の復興方法	—
景観・文化の復興方法	—
(3)実現に向けての課題	
実現に向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> R7以降、中能登町の上位・関連計画の見直し時期にも重なるため、本業務で策定した復旧・復興プランと各種計画との内容の整合が必要
(4)比較した代替案	
上記以外の比較案	上記構想案採用に至った理由
無	—
(5)地区別構想図	
—	

中能登町 調査総括表(13/13)

項目	出典等	備考
1. 被害の状況等		
(1) 被災前的人口	住民基本台帳	
(2) 人的被害の状況	石川県 HP	
(3) 都市計画等の状況	—	中能登町は都市計画区域外
(4) 建物等被害の状況	石川県 HP	罹災証明による被害の状況をプロット（被災状況図）※ベース図：地理院地図
(5) 津波浸水被害の状況	—	中能登町では津波被害はなし
(6) 液状化被害の状況	中能登町資料	
(7) 火災被害の状況	—	中能登町では火災被害はなし
(8) インフラの状況	中能登町資料、石川県 HP	
(9) 仮設住宅の整備状況	中能登町資料	
2. 各種ハザード・過去の被災状況		
(1) 各種ハザード状況	【ため池】中能登町資料、【河川洪水】国土数値情報	※ベース図：地理院地図
(2) 過去の被災状況およびその後の対策	石川県「平成19年能登半島地震災害記録誌」	
3～5. (省略)		
6. 復興計画の概要（市町全体）		
(1)～(4)	復興計画（中能登町復旧・復興プラン（R7.3公表））のうち、復興まちづくりに関する内容を記載	
7. 地区別復興方針		
(1)～(5)	中能登町復旧・復興プランに記載の地区別の復興方針のうち、復興まちづくりに関する内容を記載	※地区別構想図は市全域のみ作成